

第9回目 第7章 (p.162~178) 元祖アナバプテストの顔ぶれ 2014年12月13日(土)

◎元祖アナバプテストとは一体何者だったのか。(何を信じ、何を望み、何を夢見て、なぜ迫害され、耐え抜いたのか。彼らの遺産とは?)

*16世紀前半の再洗礼派「運動」は、各地域で独自に展開されていたものが、潜在的統一性あって、多くの信念が共有されていた。(理由については諸説あり)

*再洗礼派より数世紀遡る「分離派」との間に、驚くほどの類似点あり。しかし、再洗礼派の時代は印刷機が導入され、その見解が幅広く伝えられるようになった。

*当時のヨーロッパが抱えていた文化的大問題

- ・中世封建制から資本制への移行。都市中産階級の勃興。権力構造が脅かされる。
- ・国家主義の広がり。自由都市と神聖ローマ帝国の対立。
- ・農民たちの困窮。
- ・腐敗した制度的教会の改革を求める声。

◎教会と社会に変革をもたらそうとした2つの試み

(1) マルティン・ルター (プロテスタント宗教改革の口火を切った) 1517年

- ・ルターは教会の改革を望んだだけだったのに、カトリックは有効な手が打てず、ヨーロッパは、カトリック領とプロテスタント領に二分された。

(2) 農民運動

- ・新約聖書に基づいて、当局に要求を提出。非暴力による市民的不服従。
- ・ルターは農民ではなく、支配者側に加担。ツヴィングリも追随。農民の支持を失う。

再洗礼派運動は、教会と社会の改革を試みて挫折した者にとって、新たな希望となった。

スイスの再洗礼派

*ツヴィングリ——教会とチューリッヒ市の改革に取り組んだ司祭。彼に師事した人たちとの間に生じた思惑の相違。ツヴィングリの限界。

- ・市議会に従うのか、神に従うのか。聖書の学びと討論の末、洗礼の問題が俎上に。急進派たちは、「信仰を持った者が洗礼を受ける」ことが聖書の教えと確信。幼児洗礼の否定。再洗礼へ——これは極刑に値する犯罪とみなされていた。
- ・なぜ「再洗礼」に厳しい刑が科せられたか。
- ・全領民が、幼児洗礼によって出生時より所属すべき領邦教会が決まっていた。これを否定することはクリスダムスの根幹をゆるがすこと。
- ・古代の法令によって「再洗礼」は禁止されていた。

*ゲオルク・ブラウロックとコンラート・グレーベル——スイス兄弟団の初期の指導者。

コンラートがゲオルクに洗礼を授けた。(宗教改革時代の最初の信仰者の洗礼)

- ・ゲオルク・ブラウロック…元カトリック司祭(1529年 火刑に処せられた)

- ・コンラート・グレーベル…ツヴィングリの信奉者となったが決別。1526年病死。
- *フェリックス・マンツ…聖書学者（1527年 水死刑に処せられた）初めはツヴィングリの信奉者だったが決別
- ・再洗礼派運動に迫害はついてまわったが、この運動は市の境界線を越え、各地に飛び火し、地方にまで根をおろした。（初代教会の迫害と似た状況。迫害された人たちが、どこでもでも伝道したこと、各地に拡散したため※注1）
- ※1：チューリッヒ→東はザンクト・ガレンとアッペンツェル→西はバーゼルとベルン→北はハラウ、シャフハウゼン→国境を越えてヴァルツフト（ハプスブルク家支配下のカトリックの領地）まで。この地でのバルタザール・フープマイヤーの活躍。
- *バルタザール・フープマイヤー…（元カトリック司祭、のちの再洗礼派の神学者）農民たちを支援。ヴァルツフトは「再洗礼派都市」へ。（短期間で終わったが。）1525年ごろ、農民運動は撲滅され、再洗礼派は分離派の地下組織へ。
- ・1527年「シュライトハイム信仰告白」が採択され、スイス兄弟団の信仰告白となった。（徹底した平和主義）——起草者はミヒャエル・ザトラーと推測される。
- *ミヒャエル・ザトラー…1527年火刑に処せられた。

◎スイス兄弟団のその後

- *地下に潜って生き残った人々（現在も残っていて、スイス・メノナイトと呼ばれる）
- *ほとんどが国外脱出（・モラヴィアに逃れて他のヨーロッパから逃げてきた再洗礼派と合流した人たち ・ドイツ、オランダに逃げた人たち——異なる再洗礼派共同体との出会い（メノアの輩）——ペンシルベニアをはじめとする北米各地へ）
- *17世紀後半、保守派が分裂——「メノナイト」「アーミッシュ」

南ドイツとオーストリアの再洗礼派

- *ハンス・デンク…南ドイツ再洗礼派運動の立役者。農民運動に加わることはなかった。（p. 174～175参照）
- *トマス・ミュンツァー…農民運動を指導、戦闘へ。捕えられて処刑された。死後も影響を与えた。（社会正義に対する情熱的関心、深い神秘的な霊性、終末観）彼の影響は、ハンス・フートとメルヒオール・リンクに受け継がれた。
- *ハンス・フート…常に旅に出て、各地に再洗礼派の教会を形成。1527年獄中死。
- *メルヒオール・リンク…彼の教えはスイス兄弟団の内容に近い。（悔い改め、信仰、洗礼、弟子道）
- *ピルグラム・マーペック…ルター派から再洗礼派に。スイス兄弟団と南ドイツ系グループとの仲介的立場。

◎南ドイツ・オーストリアの再洗礼派もモラヴィアへ。——→フッタライトとして存続。

